

放する有り。難路相踵ぎ、險路相望み、虎狼等の猛獸、山野に棲息するもの尠からず。氣候激變し易く、且つ瘴癘の氣、動もすれば人を犯し、常に旅客をして行路難の嘆あらしむと。眇乎たる一命素より惜むに足らざるも、果して此の大任務を遂行し得べきや否やは、竊に危慮せざる能はざりき。

兵を行る須らく作戰計畫なかるべからず、旅行亦豈に計畫準備なきを得んや。其任務の大なれば大なる丈、更に周到の計畫と綿密の準備とを要す。而して先づ第一着に要すべきは、大體に於て新疆は如何なる地なるかを知らざるべからざるなり。『其の目的とする地に對し、先づ圖書の旅行を試みよ。然る後實地に就け』とは、實に千古の確言なり。是に於て予は暫く「圖書旅行」の人と爲れり。而して將た何物をか獲し。

憐むべし、本邦人の手に成りし新疆に關する圖書とては、絶えて無く。纔に英露人の著述中、多少材料の散見するもの有りしと雖も、概ね十數年前の事情にして、其れすら決して豊富なりと謂ふべからず。然れども之に據るの外、復た他に求め得べからずとせば、斯る乏しき材料も、亦掌中の玉たらずんばあらず。之を譯し之を

圖書の旅  
行北京に向  
ふ